

特集

京都市図書館でも始まった 図書館除籍本の有効利用

ブックリサイクル とは？

昨年10月に京都市図書館では初となるブックリサイクルが開催されました。図書館の除籍本を利用者が無償で譲り受ける催しで、全20館一斉に1週間にわたって開催、続いて第2回が1月に開催されました。

けやきでは2001年に大阪市立中央図書館の「本のバザール」を取材（けやき9号で報告）、毎年大量に出る除籍本のリサイクルが京都でも実現してほしいと願って来ました。いよいよ京都市図書館でも実現と聞き、けやき事務局メンバーが第1回、第2回に行ってみました。またブックリサイクルの目的や現状、課題について、京都市教育委員会事務局生涯学習部の担当者の方にお話を伺って来ました。

2016年2月15日 於：京都アスニー4階

A: 京都市教育委員会事務局生涯学習部施設運営担当図書館担当課長 山内 卓氏（当時）

Q: けやき・永井、窪田、島崎

京都市図書館のブックリサイクルとは

Q: ブックリサイクルの目的を教えてください。

A: ①新しい利用者の掘り起こし、②資源保護、③除籍本の有効利用の三つです。特に①について、平成22年をピークに京都市図書館の利用者数は微減傾向にあります（平成26年度は微増）。これは、近年の情報化社会の進展などにより図書館の利用の仕方も変化しているためと思われ、全国的な傾向でもあります。京都市図書館としても開館時間を早めたり、休館日を全館火曜日に限定するなど利用増に取り組んできました。ブックリサイクルも、普段あまり使わない方が図書館の新しい魅力を知るきっかけとなり、利用につながると考えました。

Q: 実施までの経緯を教えてください。

A: 従来から、京都市図書館の除籍本のうち、年間約5千冊を要望があれば公益団体などに譲渡しています。一方、除籍本を個人に譲るためには、図書館の本が「京都市の備品」であるため、「京都市図書館不要図書取扱要項」の改正が必要でした。そこで前年度から準備し、平成27年4月1日付で要項を改正。京都市図書館のカードを持っている個人向けに譲ることができるようになりました。年3回、1月、6月、10月に実施することになり、第1回は平成27年10月15日から22日まで京都市図書館全館で実施しまし

た。

Q: 本をもらうまでの手続きは？

A: 各館に設けたりサイクル本コーナーで本を選んでもらいます。「京都市図書館蔵書無償譲渡申込書兼受領書」に必要事項を記入し、本をお持ち帰り頂きます。一人10冊まで。氏名、住所、電話番号と京都市図書館のカードの番号などの記入が必要です

Q: 申込書に「譲り受けた資料を売却するなど、営利の目的に使用しません」とありますね。

A: 図書館の資料は税金で購入していますから、転売は禁止しています。

Q: もらった本が不要になった時はどうしたらいいのでしょうか。

A: 古紙回収に出して頂くのは構いません。

Q: どれくらいの本が譲渡されましたか？

A: 全20館で9,211冊準備し、譲渡率は85.3%。7,854冊が1,711人に譲られました。

Q: 本の種類は？

A: 読み物、文庫、新書、旅行本の旧版、実用書のほか、雑誌のバックナンバーも人気がありました。自然科学系の本も思ったより持ち帰る方が多かったです。

Q: いわゆる「カタイ」本もぜひ出して下さい。

ブックリサイクル当日

Q：中央図書館では初日開館時の行列は？

A：開始前に10～15人が並ばれました。

Q：左京図書館では、4～5人、右京中央図書館でも並んでおられたそうです。

A：朝の開館時は普段はシニアの男性が多いのですが、ブックリサイクルの日は女性や学生風の方の姿が目立ちました。

Q：私たちは左京図書館内の掲示でブックリサイクルの開催を知ったのですが、広報は？

A：各図書館のポスターやチラシだけでなく、普段あまり図書館を利用されない方にも来て頂きたいと、10月1日発行の「市民しんぶん」全市版に掲載しました。ただ、初回は実施決定と掲載締切時期の関係で最小のスペースでしか掲載できませんでした。第2回については1月1日版にイラスト入りで掲載しました。

Q：ブックリサイクルを機に図書館カードを作った方は？

A：おられます。

Q：第2回はどうでしたか？

A：1月15日から22日まで開催。1回目に比べて各館とも職員が慣れてきたので、準備冊数は36.9%増の12,614冊（寄贈本含む）。うち10,821冊を2,363人に譲渡。譲渡率は85.8%で第1回とほぼ同じでした。

Q：寄贈本が含まれているんですね。

A：これは利用者からの寄贈で、寄贈時に、図書館の書架に入らない場合はリサイクルに回しても良いとの了承を取った本に限っています。この回から寄贈本も提供することにし、20館中11館が1,095冊を準備しました。

Q：図書館では寄贈本を受け付けておられるんですね。自分の本を図書館のリサイクルに出して誰かにまた読んでもらいたい、という声もあります。

A：各館スペースが限られ、今の時点で大々的には受け付けられないのが実情ですが、ベストセラーや京都関係本は積極的に受け付けています。ブックリサイクルに出すことを目的に寄贈本を受け付けるというPRはしていません。今後の課題です。

Q：年に1回でもブックリサイクルの直前の期間限定で受け付けるとか、準備を私たちのようなボランティアがお手伝いできればと思います。それにしても今回の準備の作業で現場はいかがでしたか。除籍の作業は、コンピュータで登録抹消後除籍印を押し、バーコードを消してその上に「リサイクル図書」のシールを貼るのですね？

A：手間は増えますが、利用者に喜んでもらえてよかったという声を聞いています。

Q：京都市図書館全体の除籍本の数はいくつですか？

A：雑誌を除いて年間8～9万冊あります。

Q：すごい数ですね。

A：この中には汚損本、毀損本も多数含まれています。今回りサイクルには児童書も出していますが、一般書の方が多いです。というのも、児童書は回転が速く、傷みも早いのです。

Q：雑誌のバックナンバーが出ていましたが、各誌の保存館が決められているのですよね？

A：はい、永年保存のもの、責任館が少なくとも3年保存するもの、週刊誌など数ヶ月から1年保存のものがあります。

Q：先ほど、除籍本の公益団体への譲渡のお話がありました。

A：譲渡実績があるのは福祉事務所、小中学校、児童館（児童館へはここ3年は無い）、刑務所などです。要望があれば老人福祉センター、デイサービスなど福祉施設にも譲ります。多い時は年間5千冊、少ない時は2～3千冊で、ブックリサイクルの取り組みと並行して、今後も進めていきます。

今後の課題

Q：第2回の方がたくさん来られたんですね。

A：中央図書館では、2～3日で本がほぼなくなりました。700冊ほどのうち、85%譲渡されました。

Q：開催期間中、本の追加もあったのでしょうか。

A：館によります。出し切りの館のほか、追加した館もあります。

Q：トラブルは？

A：特に報告はありません。

Q：開催の日にちの設定については？

A：年3回で、8日間（15日～22日）と日を固定しています。各回で初日の曜日が異なり、また1週間の開催でどの人にも公平にという考えからです。

Q：あの方ではほとんど本がないということもあったんですね。

A：期間、曜日をどうするか、あるいは「二十日市」といった設定の方が分かりやすいのかなど、実情と公平性とを合わせて行くのは今後の課題です。

Q：年3回の開催については？

A：全館で年3回開催することでブックリサイクルが日常の風景の一コマになるのでは、そして図書館にも注目してもらうことができると感じています。一度にまとめて中央図書館で開催、という意見もありましたが、各館で開催するのがよいとなりました。全館が一斉に開催という形は政

令指定都市では初と思われます。

Q：全館一斉開催を継続するためには？

A：今くらいの規模でよいのではと思っています。この催しのためだけに人員をさけないので、今の倍になると、苦しくなるのではと思います。

Q：次回は？

A：6月を予定しています。日程は各館のチラシや「市民しんぶん」や京都市図書館ホームページなどでお知らせします。リサイクル本の取り組みは新規事業なので、まずは知ってもらいたいと思います。

Q：私たちも周りの人を誘って出掛けたいと思います。本との出会いを楽しみにしています。

行って来ました！ブックリサイクル

.....
けやきメンバーが10月と1月に開催されたブックリサイクルへ。その実体験をレポートします。

「図書館の本がブックリサイクルされて、一人10冊もらえるらしい。タダで！」これはどんな風なのか？！…やじ馬根性満点の私は落ち着かない。やっぱり、行くなら今でしょ！とばかりに、第2回開催の初日1月15日の朝一番に、左京図書館へ、まずは出かけてみた。

9時半の開館時、私は5人目で、ブックリサイクル目当てとおぼしき流れに乗り、カウンター前に特設されているコーナーへ直行した。柱の2面を使い、単行本、文庫本から実用書、雑誌のバックナンバー、時刻表、児童向けの絵本や、美術本などが並べられている。

「いざ！」バーゲン会場へ乗り込むような、バザーへ掘り出し物を探しに行くような、無言の緊張感と熱気がありながら、やはりそこは図書館。ほかの方の邪魔にならないように、配慮と良識を保ちつつ、私はしっかりカゴを片手に、本を選ばせてもらった。

結局、料理関係の雑誌（NHKテキスト3冊を含む）6冊、片付け特集の雑誌と文庫本、ガイドブック、自然観察の図鑑各1冊で、計10冊（うち寄贈本2冊）を選び、受領書を書いて手続完了。入館してからここまで15分だったが、その間にもコーナーには徐々に人が増えてきていて、私の帰る頃には10数名になっていたかと思う。

人と本を結ぶこのような取組が身近で始まり、大変感謝している。「図書館で、こんなことやっていますよ！」と、多くの人に伝えたい。

次回は6月。あなたもぜひ行かれてみては？（窪田）

昨年10月、京都市図書館でもブックリサイクルが催されると聞き、けやきの活動に参加したことを思い出しました。その時は要望しても答えは「できません」。他都市では開催されていることがなぜできないのだろうと理由も理解できずにいました。ブックリサイクルはあきらめていた私にとっては突然の出来事でした。

普段は左京図書館を利用しているのですが、お目当ての雑誌は他館にあります。そこで初日に右京中央図書館に出

かけることにしました。開始時間より少し遅れて会場に行きましたが、混雑していることもなく、ゆっくり選ぶことができます。興味のある手芸や料理の本もいただくことができました。小さな子供のようにうれしく、気が付くと10冊の本の重みも忘れ最寄り駅を通り越しどんどん歩いていました。

2回目開催の1月も右京中央図書館に行き、家庭菜園情報満載の月刊雑誌のバックナンバーを見つけ早速カウンターへ。孫のための手芸の本も見つけました。本を見ながら家庭菜園での収穫、孫の服づくりと思いほどん広がっています。特に手芸の本は返却期限を気にせず型紙を作ることができます。

ブックリサイクルを通じて、廃棄本が様々な人の手に渡り、生活を潤すことができることは素晴らしい。図書館の一角に持ち帰りコーナーがあり、廃棄本や利用者の読み終えた本が何度も活用される、そのようなことが日常になればと想像が膨らみました。（北園）

かねてより要望し続けていたブックリサイクルがついに実現、第1回目の開始初日に勇んで左京図書館へ出かけました。都合で、図書館に着いたのは午後3時。当初よりかなり冊数は減っていたようですが、それでもまだ50冊以上あり、文庫本の小説、児童文学関係のエッセー・新書、旅行ガイド「地球の歩き方」や世界国勢図絵のバックナンバーと、興味のあるリサイクル本を幅広く手に入れることができました。岩波少年文庫「レ・ミゼラブル」は、頂いたものの「これが廃棄になるとは」と心配になりましたが、後に汚損のため新本と交換されたと知り、ホッとしました。同じ時にリサイクル本のコーナーにいたのはあと一人、混雑もなくゆっくり選ぶことができました。

今回のように、各図書館内で期間限定で実施するのが、図書館にとっても、利用者にとっても、ちょうど良いかなと思いました。今後は年3回定期的に実施されると聞き、次回を心待ちにしています。（永井）

図書館は大勢の人が集う場でありながら、互いに干渉することは少ない場所です。でも、気になりませんか？あの人、何借りたのかな？あの本、何に使うのかな？

そんな疑問に少し答えてくれる「図書館で発表会」は今年で6回目。左京図書館の児童コーナーには、図書館の資料を活用した作品8点が展示されました。また、作品を作るために参考にした本もたくさん並べられ、立ち寄った人たちは、手に取って作品と見比べることができました。大人から子どもまで、自分の興味があることを掘り下げたり、活動を充実させるために資料を用いたり、さまざまなアプローチで図書館の資料を使っていることが分かりました。

左京図書館

子ども読書の日記念事業から

えほんのひろば in きょうと

4月24日

今年で7回目となる「えほんのひろば in きょうと」は、約350冊もの絵本を全て平置きにし、自由に手に取ったり、スタッフに読んでもらったりして、いっぱい絵本に触れ合える企画です。

このイベントについて、けやき事務局と絵本学習会のメンバーで、会場設営や広報の方法を模索してきました。昨年度は、図書館から会場までを動物の足跡で誘導する、隠れ家的なテントを設営する、工作コーナーを作る、デザインされたチラシ（伊藤理恵子作）を図書館内外の色々な場所に置くなど様々な工夫をして、多くの来場者がありました。今年もそれを基に更にバージョンアップして臨み、その結果約80名もの人に来ていただきました。

今年のテーマ展示として、赤ちゃん絵本コーナーをつくり、赤ちゃん絵本サポーターが読み聞かせやアドバイスをしました。

図書館は資料を集める場所であると同時に、人が集まる場所でもあります。

次はあなたの資料の活用方法を、ぜひ利用者の皆さんにお披露目してください。（澤田）

出品作品

「接収された京都」「手づくり絵本 おもちのぼうけん」
「サンクトペテルブルク ホームステイの旅」
「落語新聞」「わたしのブックトーク まめいろいろ」
「手づくりのプラネタリウムと星座の神話（夏の星座）」
「手づくりがま口」「ビーズのアクセサリ」

工作コーナーでは、絵本「じてんしゃにのるひとまねこぎら」でおさるのジョージが作る、船に変わる帽子の折り紙を用意しました。スタッフの指導を受けて子ども達は嬉々として折っていました。

子ども達だけでなく、お母さんも夢中になって絵本を読みふけったり、スタッフに読みきかせをしてもらったりしていました。今年は特にお父さんの来場が多く、子どもと絵本を楽しんでいる姿が印象的でした。

「自分も両親からいっぱい読んでもらった。自分の母親が読み聞かせのボランティアをしている」というお父さんやお母さんも多く、「子どもに本を手渡す活動」の広がりを実感しました。

遊びながら、子どもも大人もいっぱいの絵本に触れ合える「えほんのひろば」が、もっともっと色々な場所に広がっていけばいいなと思います。（伊藤）

けやきの活動 15年12月～16年5月

12/上旬～ 図書館で発表会のチラシ配布
12/5 クリスマススペシャルおたのしみ会に協力
1/上旬～ ニュースレターNo.50号原稿作成・編集
「えほんのひろばinきょうと」準備開始
2//11～3/13 「図書館で発表会」
2/15 ニュースレター50号特集「ブックリサイクルとは」取材
於アスニー（窪田、島崎、永井）
2/18 「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター交流会
4/22 「えほんのひろばinきょうと」の絵本の仕分け・チラシ作成・配布

4/23 子ども読書の日記念事業 おたのしみ会に協力
「えほんのひろばinきょうと」会場準備
4/24 「えほんのひろばinきょうと」開催
5/10 ニュースレター50号印刷発送。活動報告、総会案内送付

<図書館おたのしみ会に協力>（第4土曜） 1/23.2/27/3/26
<絵本学習会>（第4金曜、3.7.9月は第2金曜）1/22.2/26.3/11.4/22
<事務局会議><図書館とのミーティング>（主に第1月曜）
1/12.2/1.3/8.4/4.5/10
<「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター活動>
（毎週木曜10:30～12:00）

12/17.24. 1/7.14.21.28. 2/4.11.18.25.
3/3.10.17.24.31. 4/7.14.21.28. 5/5.12

古川館長さん ありがとうございました 市村新館長さん どうぞよろしく

2012年度から左京図書館館長を務められた古川勝英氏が4月1日付で転出され、新たに市村守氏が着任されました。お二人からけやきにメッセージをいただきました。

左京図書館長として勤務させていただいた四年間、図書館友の会けやきの皆様をはじめ、多くの方々に大変お世話になりました。この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

けやきの皆様には、毎週木曜日に絵本コーナーで1時間半にわたって赤ちゃん絵本サポーターの方が活動されている「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」や毎月図書館職員と一緒に内容を考えて実施している「おたのしみ会」などの定例行事をはじめ、3回連続講座として実施している「読み聞かせ交流会」。図書館の本を参考にして制作した作品を展示する「図書館で発表会」や大人の方をターゲットにした「大人のための語りを楽しむ会」など、数多くの事業実施に対して本当にたくさんのご支援ご協力、さらに利用者の視点からの多彩で熱意のこもったご提案ご意見もい

いただきました。

図書館の良さをもっとたくさんの人に知ってほしいとの情熱を持って献身的に取り組まれている皆様と一緒にあって「身近に図書館があつてよかった」と思ってもらえる図書館を目指せたことは、本当に幸せで、感謝の気持ちでいっぱいです。

4月からは、教育委員会事務局生涯学習部で、図書館担当として引き続き図書館に関わらせていただいていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

最後に、今後とも左京図書館と京都市図書館へのご支援とご協力をお願いいたしますとともに、けやきの皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

四年間、本当にありがとうございました。 古川 勝英

皆様、初めまして。このたび古川館長の後任として左京図書館に参りました市村守と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

異動が決まって、前任の古川館長から仕事の引き継ぎを受けたのですが、左京図書館では一年を通して様々な行事や取組が行われていることが大変印象的でした。そうした多彩な取組も「図書館友の会けやき」の皆様の活動があれ

ばこそです。

この左京図書館が、市民の皆様、とりわけ地域の皆様にとって「身近に図書館があつてよかった」と思っていたいただける存在になるように、けやきの皆様と共にこれからも前進して行きたいと思えます。引き続きよろしくお願いいたします。 市村 守

けやきの

本棚 50

私の

おすすめの 本

ふつうのおひめさま

メアリー・マーガレット・ケイ作

東春見訳 堀川理万子絵 徳間書店 1995年

エイミーは愛らしく美しいお姫様。けれども水の妖精にふつうの女の子に変えられてしまいます。それでもエイミーは明るく元気で私は私だと気にしません。「ラベンダーは青い、ローズマリーはみどり もしもあなたが王さまなら わたしは女王さま」と口ずさむエイミー。シンデレラとは真逆の「ふつう」が素敵な物語です。 (小4・あおに)

相席で黙っていられるか

日中言語行動比較論 そうだったんだ！日本語 シリーズ

井上優著 岩波書店 2013年

日本語と中国語を比較してみると、お互いの文化と文法の背景にある考え方が違っているの、思いやる気持ちは同じでも、現れる行動や言葉遣いが正反対になるのだと解説されています。お店や道路で賑々しく話す旅行者を見かけて、「どうしてかな？」と不思議でしたが、奥様が中国人である筆者の公平な解説にすっきりしました。

(左京図書館・前田淳子)

少年時代

ロバート R.マキャモン著 二宮啓訳

文藝春秋 1995年

現代ホラーの旗手といわれた著者初の脱ホラー小説で、幼い頃に育った小さな田舎町での不思議な事件や人々を綴るノスタルジックな物語。筋よりもエピソード重視、登場人物も多い程楽しい…という「赤毛のアン」のシリーズの中でも「アンの友達」が一番！な嗜好の私にとっては最高のお話。少年の日々には魔法が存在する。 (海東敦子)

生きて死ぬ智慧

柳澤桂子著 堀文子画 小学館 2004年

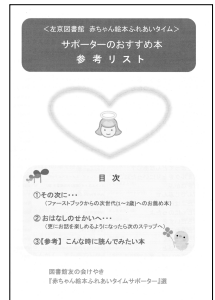
10年前ベストセラーだった「般若心経の現代語訳」。黒い厚紙に白抜き文字、必要最小限の色彩の画、A5版の小さな本。生命科学者としての眼と歌人としての心を駆使して紡ぐ仏教のことば。「行くものよ 行くものよ 彼岸に行くものよ さとりよ 幸あれ」と結ぶ。…やわらかき冬の光が身にしみて生きよ生きよとわれを温む…と歌う病と闘い続ける人の生きざまに触れる一冊。 (ねこまき)

赤ちゃん絵本サポーターがおすすめ本のリストを作りました

毎週木曜日の10時30分から12時まで、左京図書館の絵本コーナーには、オレンジのエプロンをつけた赤ちゃん絵本サポーターがいます。おすすめの絵本を読んだり本探しのお手伝いをしたり。おはなし会形式ではなく、それぞれの親子個々に絵本の楽しさ素晴らしさをお伝えしています。

今年の京都市図書館の子ども読書の日記念事業は、赤ちゃん向けの行事を中心に行われましたので、これを機に左京図書館赤ちゃん絵本サポーターのおすすめ本リストのリーフレットを作成しました。ご活用ください。

＊問合せ 京都市左京図書館 075-722-4032



◆図書館友の会 けやき の仲間になりませんか◆

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい
そんな私たちの望みをかなえ、

一人一人の世界を豊かにしてくれる場所
それが私たちの願う図書館です

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」を立ち上げました。

図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森

左京図書館のおたのしみ会（毎月第4土曜日11:00）に協力。

絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃん絵本ふれあいタイム」サポーター

毎週木曜日10:30～12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える

図書館の現状を調べ学び、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部

友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局

けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会

毎月第4金曜日10:00～。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会

主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ

下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局 京都市左京区高野東開町1-23 26-101 永井方

TEL/FAX 075-721-2625

郵便振込口座 口座番号 009200-8-156914番

口座名称 図書館友の会 けやき

◎ゆうちょ銀行の口座をお持ちの場合、口座間振替で無料で送金できます。

年会費はニュースレターの印刷および郵送料の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

けやき情報版

□ 図書館友の会けやき

2016年度総会・図書館との懇談会

時：6月13日（月）

午前10時～11時20分 総会

午前11時30分～12時30分

図書館との懇談会

所：左京図書館の上3階会議室

懇談会では、左京図書館の館長さんや司書さんとけやき会員が、直に図書館について話し合います。ぜひこの機会にけやきの仲間になってください。

□ 絵本学習会

時：毎月第4金曜 午前10時～12時

3月、7月、12月は第2金曜

所：左京図書館の上3階会議室

テーマを決め、図書館から本を借りて、その場でみんなで読み合っています。読んでもらう喜びが味わえ、新たな発見も生まれます。とっても楽しい集まりです。

今年度は引き続き4月に開いた「えほんのひろばinきょうと」で紹介している絵本を読み合う予定です。

どなたでも大歓迎、ぜひご参加下さい。

□ あまんきみこさん対談

「木の年輪のように

～私をかたちづくる出会い～」

時：6月20日(月)午後6時30分～20時

所：しんらん交流館2階大谷ホール

(烏丸花屋町の交差点を西へ)

聴講無料、申し込み不要

問い合わせ先：真宗大谷派真宗教化センター

075-371-9208

編集後記

▽けやきは五十号を迎えました。左京図書館が現在地に移転開館して半年後の一九九九年十一月創刊。ボランティアと図書館の協力が始まったことや館長さんへのインタビューで開館後の様子を伝える四頁からの出発でした。それから十六年余、これまでご協力頂いた方々、読者の方々に感謝申し上げます。現在、次号からのデザイン刷新準備中です！（き）
▽左京図書館で赤ちゃん絵本ふれあいタイムを始めるきっかけとなった、各区の保健センターで行われている京都市版ブックスタート「絵本ふれあい事業」で、この4月から生後8ヶ月の赤ちゃんに絵本1冊と絵本袋が、新たに配布されることとなった。子どもたちがより一層絵本に親しむきっかけとなつて欲しい。（り）

◇けやき

第50号 2016年5月10日

◇制作 図書館友の会 けやき ニュースレター編集部

題字:高野のYさん タイトルバック:岩倉のSさん カット:高野のHさん

◇発行 図書館友の会 けやき

京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方

TEL/FAX 075-721-2625

<http://totomo-keyaki.com>